ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

16巻1号（通算27号）

特集●ラムサール条約



1994年6月
関西自然保護機構

表紙の言葉

今森　光彦

私の撮影フィールドである琵琶湖周辺には，トンボの種類数が多い。最近は，熱心なトンボ研究家たちのグループの調査によって，そのことは，より具体的に立証されつつある。滋賀県は，県単位で全国第２位，大津市においては市単位で，日本で最もトンボの数が多い市となってしまった。琵琶湖は，地下水が注ぎ込み，湖内の水は，ゆるやかに流れている。そのため，湖岸には，河川にいるはずのアオサナエなども生息している。そんな湖をとりまく独特な生態系が，琵琶湖周辺をトンボ王国にしてしまったことは，事実だろう。また，湖周辺の里の環境には，わき水が出るところも多く，水系を豊かにしている。それればかりか，所狭しと山裾にまで広がる水田も，トンボたちの生活環境をふくらませている。入り組んだ起伏のなかにある水田は，小さなため池を備え，谷にある湿地を守ってきたのだ。最近は，水田に使用される農薬が規制されるようになり，以前激減したごく普通のトンボたちも，勢力をもりかえしつつあるのは，誠に嬉しいことだ。

表紙の写真は琵琶湖湖岸の砂浜に，べったりと羽をおろして休むアオサナエの姿である。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1．　基礎研究の実施
2．　シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3．　現地見学会の開催
4．　研究助成金の交付
5．　会報・連絡紙の発行
6．　自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7．　自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8．　国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・推持会員の会費により，まかなわれています。